統計学と国際社会 I　　統計的検定法(1)　　2005.5.23

＜援助、国際協力に関心ある人に＞

（ケース）あるインターネット・サイトに次の記述がある。

ODA の絶対額の各国比較は 0800 図＜略＞に示したとおりであるが、ここでは国の経済規模との対比である対国民所得（GNI）の値の推移を図示している。

DAC（OECD の開発援助委員会）諸国の平均は、国連の公式的な目標である 0.7%の約半分ぐらいで 1990 年代初頭までは推移していたが、90 年代には、冷戦の終焉による援助競争のニーズ低下、あるいは欧米各国の厳しい財政事情によって大きく低下をみることとなった。

日本は ODA 絶対額では大きく伸長し 90 年代にはいるとトップドナーの地位を連続して保つようになったが、対国民所得比では DAC 諸国平均を下回っており、それが平均を上回るようになったのは、この数年のことに過ぎない。ODA 対国民所得比が継続的に平均以上の国はデンマーク、オランダといった国であり、それなりの哲学があってのことである。個別の援助関係者の熱意は諸外国に劣るわけではないが、国全体の熱意としては、お付き合い的な心境の強い我が国としては、平均以上の援助努力を維持するのは難しく、近年はまた平均程度に落ち着いてきている。また最近 2 カ年連続して対 GNI 比が DAC 平均を下回っている。

1960 年代には世界の 3 分の 2 の援助額を提供し、米国援助の黄金時代といわれていたが、70 年代以降の米国は対国民所得比の ODA では先進国の中でも最低の部類に属している。軍事力のよる世界戦略を重視している米国にとっては、ODA は補完的な位置づけしかないともいえる。もっとも 9.11 テロ以降米国は ODA 額を増加させ、対 GNI 比もやや回復している。

最近は、日本の国連安保理常任理事国入りに向け、最低限、他の先進国並みの ODA 増額、そして公式目標 0.7%へ向けた ODA 増の計画が求められており、こうした点から最近 2 カ年連続して対 GNI 比が DAC 平均を下回っているのは問題となる。

（課題）　ＯＤＡ実績が高い国が GNI（資料の都合で、GNP で代用）比率も高いとはいえないようである。配布データでこれを検定しなさい（資料＝『世界経済図説』岩波）

注）国民総生産（GNP）= 国民所得(GNI) ＋　間接税　＋　固定資本減耗

＊ 方法：２標本ｔ検定(授業で説明)　<= 医学での例

＊ 計算： 量的に大変なので、エクセルを用います。